

○気象庁内の研究環境の改善については、スピーカーの提案のとおりでよいと思ひ、ぜひ推進してもらいたいが、大学院生の就職先については、学会が若い研究者の層をふやすていねいな方法を考えて欲しい。

○気象庁は若がえりの時代にはいろいろあり、研究環境についても悲観的なものではない。

環境破かい等の問題

○今日のスピーカーは口をそろえて環境問題をとなえたが、なぜそれがとう突にでてきたか理解しがたい、上層大気の研究とか、惑星大気の研究も重要である。

○現代は単に科学のこゝばかり考えていたのでは科学者でありえない。どうやって人類を破滅から守るかを常に考えなければならない。ただその具体的なあり方として、たとえば私について言えば、今までやってきた

雷の研究と環境問題をどう結びつけるかに苦しんでいる。

○今日は職場の研究環境を論じるために実学の側面を強調してしゃべった。国連から勧告されている食糧問題、人口問題などの中から、環境破かいと水資源の問題を、単なる技術者集団だけでは解決できない新型の問題としてとりあげた。アカデミーの側面が中心議題の場合には、また別のとりあげ方ができる。

○研究者、技術者の研究環境を学術会議がアフタケアする考えなど、気の付いた点はどんなものでもよいかから学術会議の議長へ手紙で申し入れしてほしい。手紙がたまと委員会へまわして審議することができる。

以上文責 駒林 誠（気象大）

日本気象学会誌

気象集誌

第II輯 第49巻 第6号 1971年12月

廣田 勇：冬期成層圏におけるプラネタリー・ロスビー波の励起機構……………	439—449
林 良一：有限の深さのエクマン層における赤道大規模波動による摩擦収斂……………	450—457
林 良一：地面摩擦の存在の下で対流熱放出により不安定化した大規模赤道波動……………	458—466
野本 真一・巽 保夫：“類似示数”による型の分類と予想天気図の検証……………	467—483
近藤 洋輝：有限の熱伝導率および厚さをもつ壁に囲まれた流体の対流の線型安定論……………	484—493
初山政子・片山功仁慧：死亡の季節変動の統計的解析……………	494—509

要報と質疑

K. サハ・R. スリヤナラヤナ：熱帯地方において種々のバランスの関係を仮定した場合のジオポテンシャルの数値解……………	510—515
岩井 邦中：立体的構造をもった雪の結晶について……………	516—520
第49巻（昭和46年）目次……………	
正誤表……………	